

## 令和5年度第2回那須野が原開拓日本遺産活用推進協議会総会

### (要旨)

- 日 時 令和6年1月30日(火) 午前10時30分から午前11時20分まで
- 場 所 那須塩原市役所西那須野庁舎3階 301~303会議室
- 出席者 会員13名、事務局12名
- 欠席者 会員7名

#### 1. 開 会

#### 2. あいさつ

#### 3. 協議事項

##### (1) 令和5年度の事業経過について【資料1-1、1-2、1-3】

- 資料に基づき事務局から説明

##### 【質疑】

木村委員： サイクリングツアーの集客が2名だったということだが、要因分析については（栃木プロジェクトプロからの）報告待ちということだが、事務局としての考えは。

事務局： 那須高原ロングライドは100kmの部、丘ポタも激ポタからエントリーが埋まっていくなど、一番きつい部門から埋まっていく。サイクリストは距離と獲得標高を一番目安にしている。こういった部分と観光というのが上手くマッチしなかったのではないかとというのが事務局としての所感である。

木村委員： 大きなヒントになった。距離が長すぎたり、エリアが広すぎてダメだったのではないかと考えたが、サイクリストにとっては難易度が高いということが一つのありようのようだ。だとすれば、ウォーキングはどうか。今回は那須町、今回は大田原というようにスポット的に。まだまだ認知度が上がっていないので、ウォーキングしながら解説を聞いて日本遺産を味わうという方向性もありかと思う。この後、報告書の内容を精査して失敗例から学んでほしい。

田口委員： ONSEN ガストロノミーウォーキングを那須塩原市で開催しており、西那須野地区で開催した際に、乃木神社や大山別邸を見て参加者も大変喜んでいました。翌年の黒磯地区での開催には日本遺産が入っていなかった。議会だよりも出ているが、日本遺産になることが目的ではなく、観光資源としてどのように活用していくかが重要とある。ONSEN ガストロノミーウォーキングで日本遺産を活用してほしいということがでている。行政も横断的に他の係とタグマッチし、日本遺産をどうしたらいいのかというのを共通課題とし、アイデアをし

ぼって。市町ごとに違っていいが、成功例があればそれをモデルにして広めていくのも一つの方法ではないか。日本遺産を観光や食に絡めていく必要性があると感じた。

渡辺会長： ロングライドやガストロノミーなど類似のイベントで好評いただいており、成功事例はある。参考になるものもあるので考えていきたい。

星野委員： 日本遺産ということで特別な活動していることは承知しているが、原点になった那須疏水がテーマのものが少ないと感じる。大分県宇佐市では、那須疏水、琵琶湖疏水、安積疏水をつくった内務省の土木官僚であった南一郎平さんのことを高く評価し、朝ドラに誘致しようという運動が展開されている。先人がつくった命の原点である水というものを次の時代にどう伝えていくのかという大事な役割があると思う。それがあって初めて那須野が原の遺産が広く伝わっていくのかなと思っている。その点を重視して活動していただけたら有難い。

渡辺会長： ONSEN ガストロノミーウォーキングには地元の方も参加して再発見というのがある。コロナによりマイクロツーリズムが流行り、今も市内向けのイベントに来ていただける。那須疏水を取り上げてもらってもいいと思う。那須疏水は原点である。

星野委員： 那須疏水は ICID（国際かんがい排水委員会）により世界かんがい施設遺産に登録されている。非常に高い認知度が世界的にはあるが、残念ながら那須野が原はあまり評価がされていないので、ぜひ PR していただきたい。

⇒ 承認

## （２）令和 6 年度の事業計画（案）及び収支予算（案）について【資料 2-1、2-2、2-3】

- 資料に基づき事務局から説明

### 【質疑】

木村委員： 演劇の制作は良いと思う。私は JA なすののこぼれ話というものを書いているが、聞こえてくるのは、やはり誤解されているなということ。「那須野の大地」を観た方や日本遺産のガイドブックを読んだ方が、那須野が原の開拓というのは明治政府の高官が地域住民を締め付けるといふか、勝手にやったんだろという人がある。どこか誤解されている。リーダーたちだけが表に出ているために、地域住民の苦勞や誇りがあまりきちんと表現されていない気がする。辛かった、苦しかった、切なかったというよりも、力強さや明るさなどプラスの方向の感覚のドラマをつくってほしい。那須野の大地を切り開いた先人たちの誇りを伝えていくことが大事だと感じる。

（周遊促進事業について）山、川、丘陵、里があり、日本の自然をつくってきた基本

がここにある。そこに農がある。疏水が核になる。そういったものを絡めたラリー、参加者が先人たちがこんな凄いことをやったのかと実感できる構成を考えてほしい。

渡辺会長： 今、地震やコロナなど時代的に先が見えないような、誰しものが将来に不安を持って生きている中で、先人たちの開拓魂、フロンティアスピリット、明るい部分、これからの時代を開拓していくんだという意気込みというのはとても良いと思う。先人たちの苦勞の歴史、感謝の気持ちは大切だと思うが、これからの未来をどうしていくかという時に先人たちから学べる機会は多いと思う。那須野が原の特色を色んなイベントでも引き出せればと思う。

玉木委員： 演劇の制作は良いと思う。地元の劇団であるらくりん座というものも有難い。今ある「那須野の大地」とは違った切り口で演劇を作らないと意味がないと思う。「那須野の大地」は市民劇としては凄いと思う。そういう素晴らしいものがあるから、全く違った切り口でないと意味がない。「那須野の大地」は開拓民の立場から作った。日本遺産は明治貴族が西洋式農法を導入し大規模な農業をはじめたというもので、立場というか切り口が違う。開拓民の立場から作ってしまうとあまり意味がない。脚本はどなたに依頼するのか。

事務局： 「那須野の大地」と違った切り口というのは事務局も考えている。らくりん座には日本遺産のストーリーを踏まえて一から作っていただくことをお願いしている。脚本家等は、来年度正式に契約してからの打合せになる。

玉木委員： 二か年計画の一年目ということは、この倍の予算になるのか。

事務局： そのとおりである。らくりん座と打合せを行った際に、一年で制作から上演までは難しいということで、一年目に制作、二年目に準備を行い、二年目である令和7年度の日本遺産の日、2月13日付近に公演に持っていかれたらと考えている。

玉木委員： 今ある「那須野の大地」が素晴らしいから、あまり意味がない制作にはなってほしくない。

星野委員： 玉木さんの意見が大賛成である。素晴らしい「那須野の大地」がおかしくなってしまう形だけは避けたい。皆さん本当に頑張ってもらって、素晴らしい演劇だと思うので、よろしく願います。

⇒ 承認

### **(3) 日本遺産総括評価・継続審査について【資料3】**

- 資料に基づき事務局から説明

#### **【質疑】**

木村委員： 日本遺産とは別だが、関連がある内容として、地域活性化や文化財の保存と活用ということで、申し上げたいことがある。文化庁の戦略として、保存するだけでなく活用していくと

いう部分が文化財保護法の中でも大きく変わってきている部分である。保存だけでなく活用となると日本遺産とリンクしてくると思う。大田原市と那須塩原市は文化財保存活用地域計画を作成した。矢板市と那須町も文化財を保存だけでなく活用していく環境を整備しないと、民間ともつながらないし、行政も上手く動かないということになる。他部局とも連携していくには、こういった総合的な計画が必要になる。ぜひ矢板市と那須町にも文化財保存活用地域計画を作成いただき、日本遺産ともリンクして有機的に動いてほしい。日本遺産は104件あるが、地域の大地とか自然や人がどう動いたかということが総合的に絡まった日本遺産はそんなにない。逆に総合的なゆえに、しっかりと核をつくって進めていかないと、宝の持ち腐れになる。ぜひよろしくお願ひしたい。

渡辺会長： 那須野が原はいつの間にかできていた遺産ではなく、しっかりとしたストーリーがある。特性やスケールメリットを活かしていきたい。

木村委員： 次世代につないでいくために、学校教育の中で日本遺産を子どもたちに伝えてほしい。ふるさと教育の中にも、日本史に関わる重要な場所だということを伝えていくことが必要だと思う。

⇒ 承認

#### (4) その他【資料なし】

- 令和6年度の総会について（事務局連絡）
  - ・第1回 日程：令和6年7月29日（月） 午後2時から  
場所：那須塩原市役所西那須野庁舎
  - ・第2回 日程：令和7年1月30日（木） 午前2時から  
場所：那須塩原市内（西那須野庁舎、博物館のいずれか）

#### 4. その他

- 大田原市の組織について（大田原市斎藤副市長）

これまで文化振興課は教育委員会部局にあったが、令和6年度、4月から産業の部門に移す。産業振興部を産業文化部にし、文化振興課が移る。文化振興課の事務分掌は変わらない。観光、商業振興に結び付きを強くしていく。

#### 5. 閉 会